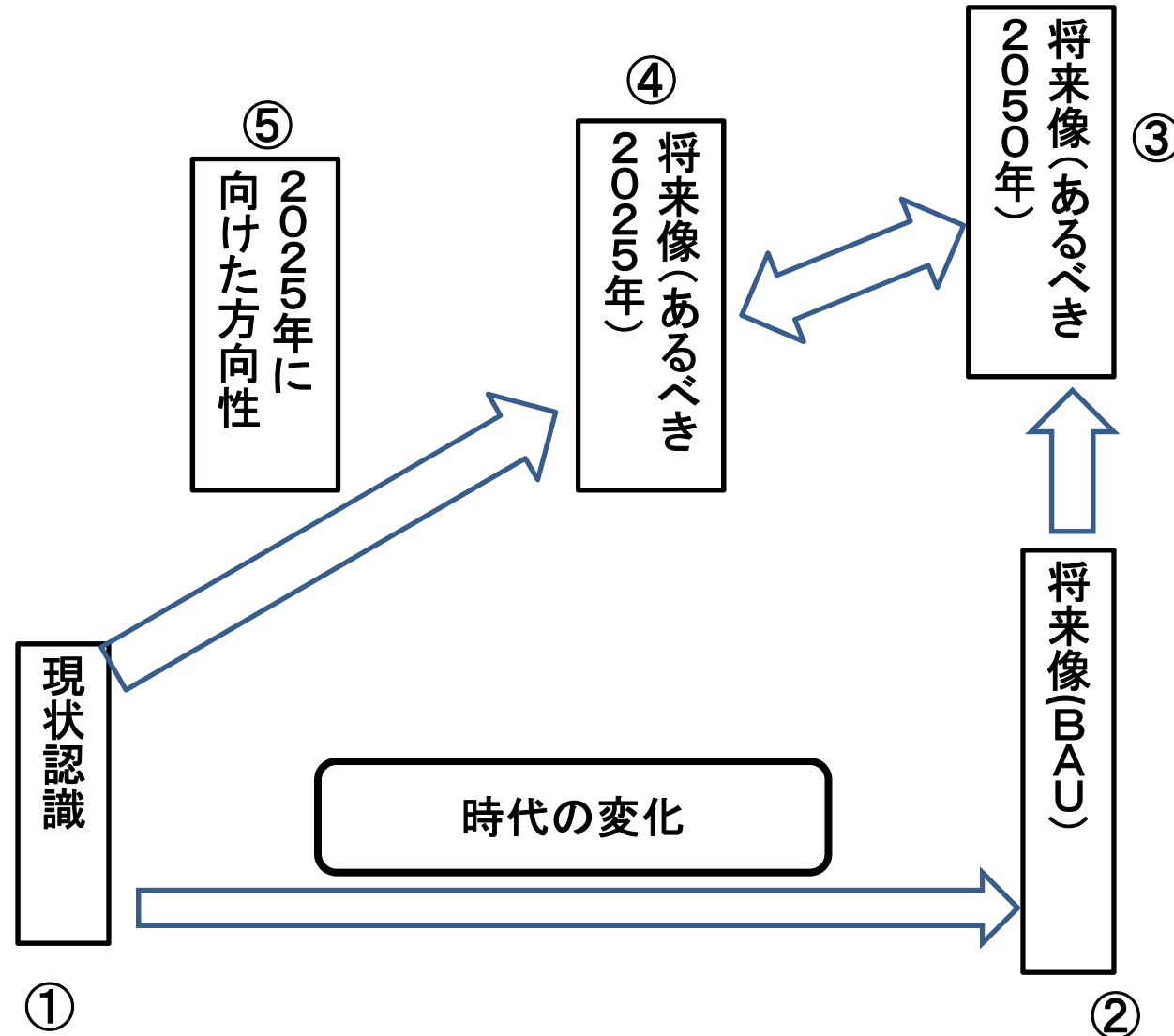
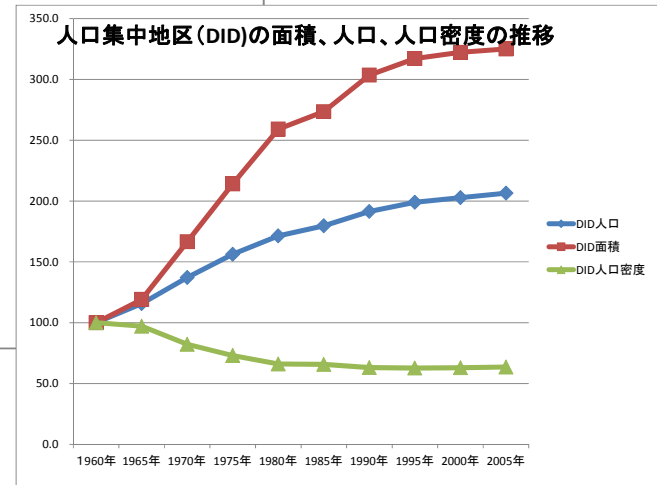
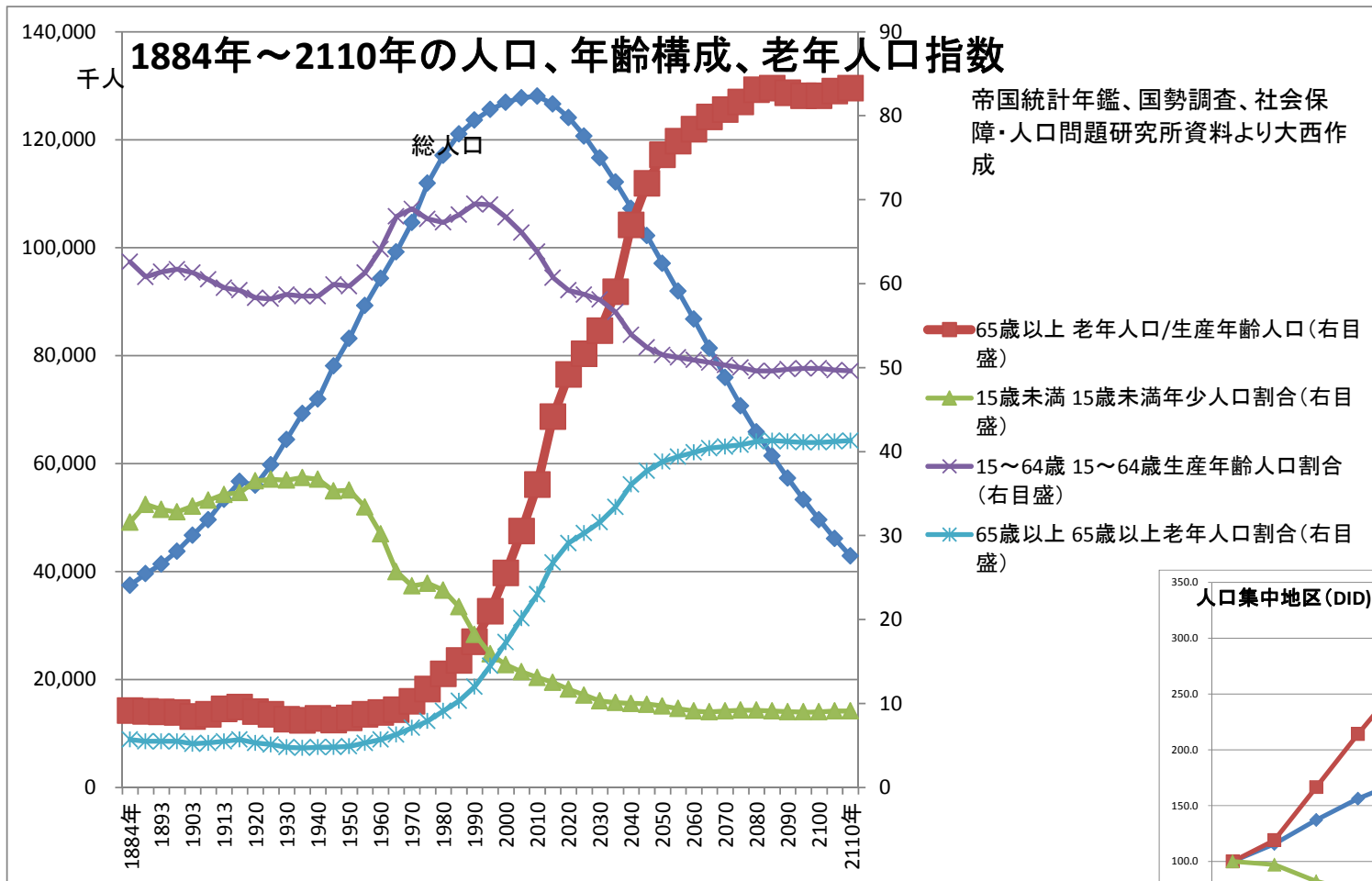


第1回フロンティア分科会 大西座長説明資料

フロンティア分科会の議論の構造 バックキャストによるアプローチ





人口の変化

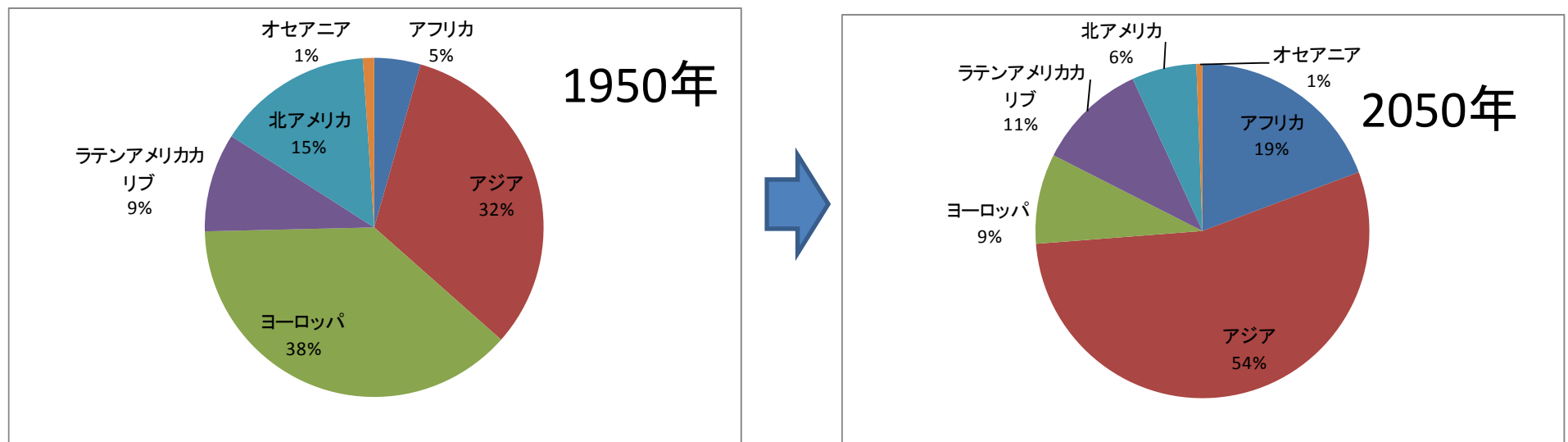
少子高齢化の加速・年金福祉・就労等あらゆる社会システムが頻繁に変更を余儀なくされる

- 総人口は、2050年には3,500万人減の9515万人、2105年には明治30年代の水準
- 老年人口/生産年齢人口(老年従属人口指数)は2050年に76.4%へ(現在は36%)
- 年少人口は明治大正昭和30年代までの30%超の水準から、2050年には8.6%に。
- 逆都市化で都市でも人口減

アジア化の変化

- 2050年アジアの人口は52.2億人(58.6%)。
- 都市人口に占めるアジア都市のシェアは54%へ。欧米の時代からアジアの時代へ(人口、都市中心の経済活動)
- 人(観光・留学)、物(貿易)、金(投資)、情報の流れで東アジア・東南アジアのウエイト増加
- 留学生の減少等、日本人の内向き傾向。

都市人口のシェア(国際連合都市人口予測)



低炭素化の変化

●温室効果ガス2050年80%削減。2020年25%削減。世界的な協調行動。

●各地で、温室効果ガス排出量の割り当てが決められる。

●エネルギー、資源の供給方法、循環システムに大きな変化

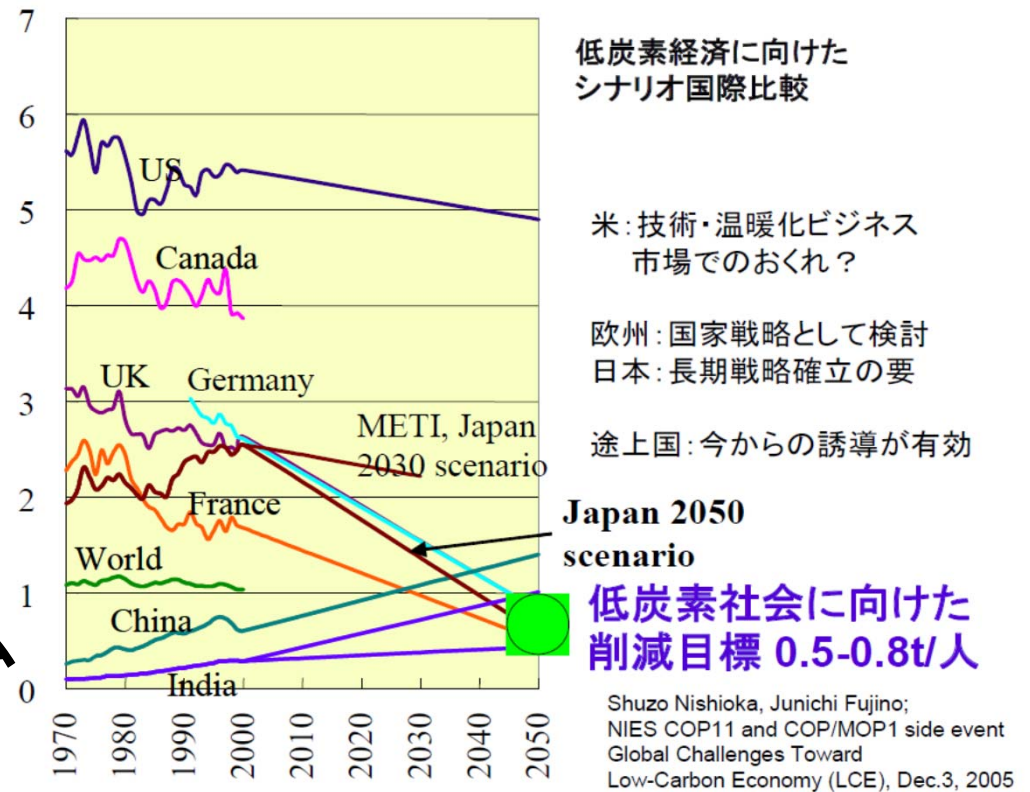


図 14 低炭素社会に向けたシナリオ国際比較

ガバナンスの変化

- 計画を立て、予算を割り当てるトップダウンの「哲人政治」—官主導の政策運営は縮小。参加型合意形成の仕組みが発達。
- 行政でも、中央官庁の役割低下、地方自治体の比重増大。
- 地方では、広域行政による経済・環境・交通政策の推進。
- 国際的にも、アジア・太平洋地域での多国間で、重層的な合意形成が必要。

災害・エネルギー分野の変化

- 自然災害との共存・防災の限界・「減災」の考え方＝安全な場所に住むことが基本
防災施設(防波堤・防潮堤)とまちづくり、避難
- 災害大国における一極集中構造の危険性も認識
- 原子力エネルギーの制御不能な危険性認識、再生可能エネルギーの活用が急務

フロンティア分科会の議論 時代の変化とフロンティアの分野

時代の変化

- 人口減少社会
- アジアの時代
- 低炭素社会
- 分権・参加型ガバナンス
- 安全安心社会構築



バックキャストイングによって将来のあるべき
姿を設定 その実現に向けたフロンティアを
設定



フロンティアの諸分野

- 繁栄のフロンティア
(経済発展、厚い中間層、イノベーション)
- 幸福のフロンティア
(社会的公平、復元力、社会的紐帯)
- 叡智のフロンティア
(知識社会、理性的社会、イノベーション)
- 平和のフロンティア
(国際平和、安全安心)